



## 日本ナショナル製罐株式会社（金属工業(法人)）

1972年（昭和47年）、アルミニウム缶の製造・販売を目的として創立。東洋製缶グループ会社の一員として、主にビール系飲料でお馴染みの350ml、500ml缶を製造し、年間で約17億缶を出荷。従業員は212名。

【平成28年3月】

協会けんぽ茨城支部の「健康づくり推進事業所」として認定される

【平成31年2月】

経済産業省・日本健康会議による顕彰制度「健康経営優良法人2019（中小規模法人部門）」に認定される

【平成31年3月】

茨城県による第1回「いばらき健康経営推進事業所」に認定される

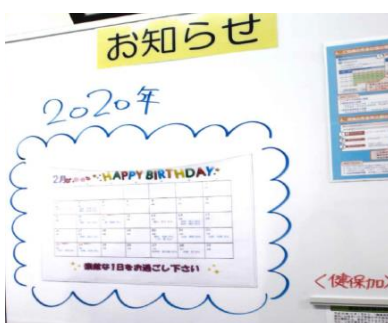
### 健康経営をはじめのきっかけ

はじめに協会けんぽから「健康づくり推進事業所」として認定を受けました。次に茨城県、国と段階を踏みながら認定を受けたいと考えていましたが、認定項目をみると、もともと会社で取り組んでいることが見受けられ、認定項目に当てはまるのでは？と感じたことがきっかけです。今まで積み重ねてきた取り組みが自然と認定に繋がりました。



### コミュニケーションを大切に

毎年社員とその家族300名ほどが参加するビアパーティーが自慢の社内行事です。交替勤務だとなかなか土日に休むことが難しいので、開催日はラインを停止して、全従業員が参加しやすいように、また、費用は会社が全額負担しています。ご家族への感謝の意味も込めて開催し、社員・家族同士の親睦を図っています。



従業員が必ず通る通路には、誕生日を掲示することで、普段なかなか話ができない方に「お誕生日おめでとう」などの声掛けのきっかけにもなっています。

他にも「ちょっといい話」という取り組みがあります。

例えば、重い荷物を持っていて扉を開けられないときに、通りかかった人が扉を開けてくれた。そのようなときに、扉を開けてくれた人にメッセージカードを書きます。書いた人が1ポイント、書かれた人が2ポイントで、ポイント数に応じて本人たちには缶ビールを贈呈、会社としてはそのポイント数を缶ビールの額に換算して一定期間蓄え、社会福祉や災害地に向けて寄付をしています。

「世のため人のために貢献する」、「従業員を幸せにする」という社風を大事にしているからこそ継続している取り組みです。



### 禁煙への取り組み「スワンデー」

毎月22日は、スワンデーとして禁煙デーを設けています。禁煙は、強制ではなく、個人に任せるようにし、各々が自覚したうえで取り組んでもらっています。

喫煙所も以前は10箇所ありましたが、現在は4箇所まで減らしました。今後は、卒煙に向けた取り組みをしていきたいと考えています。一方で、吸わない人にも良いことがあるような取り組みも考えていきます。



### 一人ひとりと向き合う

健康診断の結果は、看護師が一人ずつ面談を行っています。面談をする際には、看護師が面談日を決めるのではなく、従業員本人の都合が良い時に相談室に来ていただいています。

また、精密検査の受診に関しては、産業医に受診の必要性を判断していただいております。その後、受診の結果を確認しています。一人ひとりとお話をするというコミュニケーションを大切にしています。中には、声掛けがしつこいと耳を傾けない方もいます。そのようなときには、「ご自身の身体

のことですからご自由にどうぞ」と、あえて突き放すときも…。本人に『自覚』してもらうことが大切だと思います。



左：総務課長 宮城様 右：看護師 佐々木様

### 健康で長く働ける職場へ

社員のため、家族のためという想いからコミュニケーションを促進し、その延長線上に健康経営があり、健康づくりへの取り組みを加速させていました。健康経営への取り組みを社員に強制させることはなく、「自覚したうえで自ら行動に移してもらいたい」、そうしたなかで、「歳をとっても健康で長く働いて欲しい」と語られていました。「会社として優良法人として認定されたなかで、従業員各個人としてもモチベーションを上げられるような取り組みを試みたい」とさらなる働きやすい職場づくりを展望されており、今後も独自の健康づくりの取り組みが展開されていくことでしょう。